「小倉北特別支援学校・北九州中央高等学園整備基本計画」について

その他報告①

1　事業の内容

「小倉北特別支援学校」及び「北九州中央高等学園」を、東芝北九州工場跡地を活用して、２校併置で建替え整備する。

2　事業の目的

現状と課題

児童生徒数の増加による過密化・狭あい化（小倉北）

特別な教育的支援が必要な児童生徒増加に伴い、令和２年度時点で６教室不足しており、特別教室の転用等により工夫しているが、本来の教育活動に支障が出ている。

敷地が狭く、適切な広さの運動場や安全面に配慮したスクールバスターミナルが未整備であり、児童生徒の安全に支障が生じている。

校舎等の老朽化（小倉北・中央）

両校とも築４０年以上が経過しており、「北九州市学校施設長寿命化計画」のＡ～Ｄ評価のうち「Ｃ」評価（広範囲に劣化）と判定され、老朽化が進んでいる。

一般就労希望者の増加、就労の多様化（小倉北・中央）

現行の作業学習（木工作業・パン製造・手織り）が企業のニーズに対応しきれていない状況にある。将来の職業需要の変化に柔軟に対応できる作業教室の整備が必要である。

効果

ハード面

・適切な規模の普通教室や特別教室、運動場、スクールバスターミナルを整備することで、安全かつ快適な空間が提供でき、教育環境の改善が図られる。

・将来の職業需要の変化に柔軟に対応できる作業教室や農菜園を確保することができる。

・音楽室等の特別教室や作業教室を２校で共用することで、施設規模のコンパクト化を図るとともに整備費を抑えることができる。

ソフト面

・２校の児童生徒の職業自立や、社会性・コミュニケーション能力の育成を図ることができる。

・福祉的就労がメインである小倉北特別支援学校の一般就業率を向上させ、そこで蓄積したノウハウを活かした指導を行うことで、全市的な一般就業率向上が期待できる。

・東芝北九州工場跡地の利用コンセプトに沿った整備となり、障害者とともに生きるまちをつくることができる。

3　骨格となるコンセプト

- ○ 知的障害に対応した教育を行う特別支援学校
- ○ 障害の重度・重複化、多様化等に対応し、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育及び必要な支援
- ○ 地域に開かれた学校づくり、地域との連携及び地域への貢献
- ○ 経済性及び効率性に配慮した特別支援学校

4　環境・整備における７つの柱

① ２校の役割を発揮しつつ、併置による知的障害教育の相乗効果を高める施設
② 障害の重度・重複化、多様化に対応できるユニバーサルデザインに基づく施設
③ 多様な学習内容・形態の変化や、弾力的な指導体制に柔軟に対応できる施設
④ 職業教育を充実させ、時代のニーズに応じた教育を行う施設
⑤ 「新しい生活様式」を踏まえた、健やかに学習・生活できる環境の整備
⑥ 地域との連携を大切にし、地域に貢献できる開かれた施設
⑦ SDGｓ未来都市にふさわしい施設

5　学校整備の概要

	建替え前（令和２年度）※1		建替え後（令和７年度）	増減	整備内容
所　在	小倉北特別支援学校（小倉北区下到津四丁目）	北九州中央高等学園（戸畑区沢見一丁目）	２校併置（小倉北区下到津一丁目）	－	【普通教室ゾーン】 普通教室、学習室、多目的室、カームダウン室など 【特別教室ゾーン】 音楽室、美術室、図書室など 【作業教室ゾーン】 商品管理・物流室、食品加工室、農園芸室、清掃作業室、福祉学習室、地域交流室など 【相談支援・自立活動ゾーン】 進路指導室、ワークステーション、自立活動室、情緒訓練室、言語訓練室など 【体育館ゾーン】 体育館、備蓄倉庫 【屋外施設】 グラウンド、農菜園、バスターミナル
学　部	小学部・中学部・高等部	高等部（定員制）	同左	－	
児童生徒状況	主に中・重度の知的障害	軽度の知的障害	同左	－	
児童生徒数	145	115	154/120		
建物構造	ＲＣ３階建	ＲＣ４階建	ＲＣ３階建（予定）	－	
敷地面積	7,931㎡	15,762㎡※2	21,501.73㎡	▲約2,200㎡	
延床面積	6,112㎡	4,627㎡	13,260㎡※3	約2,500㎡	
竣　工	昭和５３年（築４２年）	昭和４８年（築４７年）	令和７年度中竣工予定	－	

総事業費：約５９．５億円

※１　最新の児童生徒数が令和２年５月１日現在のため、令和２年度時点で比較。
※２　北九州中央高等学園は、戸畑高等専修学校と共用して使用（敷地面積は２校分、延床面積は北九州中央高等学園のみ）
※３　特別教室（音楽室・美術室等）、作業教室、相談支援等は共用

6　スケジュール（予定）

年度	Ｒ３	Ｒ４	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ７
内容	基本設計 公共事業評価事前評価２	実施設計	校舎等建築工事	グラウンド整備工事	供用開始予定 旧校舎解体